

2024/12/19(木) 認知症バリアフリー情報交換会



# 共生社会の実現に向けた 豊橋鉄道グループの取組み

豊橋鉄道株式会社 総務部

赤川 景子

1 豊橋鉄道について

2 取組事例

3 オレンジイノベーションプロジェクト

4 どのように社内展開したか

# 1. 豊橋鉄道について





## 本社所在地

愛知県豊橋市駅前大通一丁目46番地の1

## 代表者

代表取締役社長 岩ヶ谷 光晴

## 設立年月日

1924年(大正13年)3月17日

## 資本金

1億円(2023年現在)

## 売上高

21億円(単体)  
74億円(グループ連結)

## 従業員数

200名(単体)  
750名(グループ連結)

## 鉄道旅客事業



豊橋市の新豊橋駅から  
田原市の三河田原駅を  
結ぶ**鉄道路線**

通学や通勤などの利用  
が多く**生活路線**として  
地域の足として活躍

## 軌道旅客事業



設立から現在まで運行を  
続けている**路面電車**

市電の愛称で市民から  
親しまれ、生活路線だけでな  
く**イベント列車**としても活躍

## 不動産・広告事業



不動産事業は駐車場や  
賃貸物件などを取り扱い  
**レンタルスペース**も開始

広告事業はラッピングや車  
内のポスター、駅での看板  
などを取り扱う





【バス・旅行】  
豊鉄バス(株)



【鉄軌道】  
豊橋鉄道(株)



【タクシー】  
豊鉄タクシー(株)



【自動車整備】  
トヨタオートサービス(株)



【工務事業】  
豊鉄建設(株)



【コミュニティバス受託運行】  
豊鉄ミデイ(株)



【清掃・ビル管理】  
豊鉄環境アシスト(株)

## 2. 取組事例



# 認知症研修

## 1) 従業員向け認知症研修



- 実施時期 令和3年3月～ ※現在休止中
- 対象者 豊橋鉄道全従業員
- 内容 認知症サポーター養成講座  
+ONEアクション研修
- 講師 当初は県、市それぞれから派遣  
現在は内製化（社内講師5名）

## 2) 新入社員向け認知症研修



- 実施時期 令和3年度～
- 対象者 豊鉄グループ新入社員
- 内容 認知症サポーター養成講座  
+ONEアクション研修
- 講師 市内グループホーム管理者  
（令和5年度～）

# 「バスの来ないバス停」プロジェクト

■実施時期 令和4年度～

■内容

実際に使用していたバス停を  
グループホームに設置

■プロジェクトメンバー

- ・愛知県認知症グループホーム  
連絡協議会東三河ブロック
- ・市内地域包括支援センター  
認知症地域支援推進員
- ・アンキカフェ
- ・豊鉄バス(株)、豊橋鉄道(株)



# 参考)バスの来ないバス停



- 発祥はドイツの養護施設
- グループホーム入所者が強い帰宅願望で落ち着かなくなってしまう時に、バスが来るのを待ち、気持ちが落ち着くまで過ごすことができる場所として設置。
- 家に帰りたい願望は、「バス停でバスを待つ」という行動でかなり落ち着く。また、認知症の方は短期記憶障害があり、記憶をとどめておくことができないため、バス停でバスを待っている間に「なぜそこにいたのか」を忘れてしまい、穏やかな気持ちでグループホームに戻れる。

## 【バスの来ないバス停を置くメリット】

- ①目で見て納得する  
「地元のバス会社のバス停→これに乗ればどこかに行ける」  
「時刻表を確認する→待てばバスが来る」
- ②行動することで納得する  
「実際にバス停で待つ→自分の帰りたい思いを聞き入れてくれた」

認知症の方の意思を尊重した対応をするため、そして介護者の気苦労を少しでも減らすための「優しい嘘」

# RUN伴（らんととも）

■協賛開始 令和4年度～

■内容 「タスキをつなぐ」という非日常的な体験・出会い  
気づきから、認知症の人と一緒に誰もが暮らし  
やすい地域づくりを提案し、それぞれの日常が  
変わっていくことを目指す啓発イベント

■メンバー 豊橋市、豊橋南ライオンズクラブ、豊橋市社  
会福祉協議会、愛知県精神保健福祉士  
協会、愛知県認知症グループホーム連絡  
協議会、地域の企業、デイサービス等

※R6年度：ボランティア約100名、ランナー約100名



# 当事者参画型開発

## ■ 認知症の人にやさしい企業連携推進事業 (認知症共創ワーキング)

実施時期：令和4年度～5年度

事業主体：愛知県

取組内容：路面電車を使用した外出企画

## ■ オレンジイノベーション・プロジェクト

実施時期：令和6年度

事業主体：経済産業省

取組内容：認知症の方が安心して楽しめる  
日帰りバスツアー



# 3. オレンジイノベーションプロジェクト



# 認知症の方もそうでない方もみんなで楽しめる！

## 昭和レトロな伊良湖バスツアー

### 🚌 旅程 🚌

9:30 豊鉄バス磯辺車庫

10:00 めっくんはうす

11:00 東海七福神毘沙門尊天  
『潮音寺』

12:00 龍宮の宿（昼食）

13:50 日出の石門

14:40 道の駅  
あかばねロコステーション

15:50 磯辺車庫



### 【コンセプト】

**回想法**にヒントを得て、今回の認知症当事者（グループホーム入所者）の若い頃のバスツアーを再現。グループホームに入所すると機会が少なくなる「買い物」や「観光」、「普段と違う食事」などを提供し、認知症の方もそうでない方も一緒に楽しめる昭和レトロな伊良湖バスツアーを企画した。



### ポイント① バス車内での昭和レトロな企画

バス車内では、元バスガイドによる様々なイベントを実施。模造紙に書いた地図での行先案内、クイズ大会、紙芝居、カラオケなどを行った。



### ポイント② 普段なかなかできないことを体験する

道の駅でのお買い物など、「自分が欲しいものを買う」「皆と一緒に美味しいものを食べる」などグループホームではなかなか体験できないことをツアーで実現。

### ポイント③ 昔懐かしい大宴会場での食事と余興

大宴会場での食事と、食後の余興で「ビンゴ大会」と出し物を実施。

### 【本ツアーの独自性】

グループホームを対象とした貸切バスツアーであること

### 【QOLへの寄与】

グループホームに入所した後も、入所前と同じように楽しく旅行に行くことができ、日々の生活のメリハリや楽しみが増える可能性がある

# 当事者の方たちへのインタビュー



私、買い物が大好きでね。前は毎日買い物に行ってたの。今日、すごく楽しいわ。帰ったらフランスを食べるのが本当に楽しみ!嬉しい!



旅行も悪くはないね。でも、疲れた。

(娘) お父さん、昔は車でどこにでも行ってたよね。

(当事者) そうそう、ここにはしらすを買いにきてたなあ。懐かしいなあ……。車は大好きだけど、今はプリウスで精いっぱいだよ。

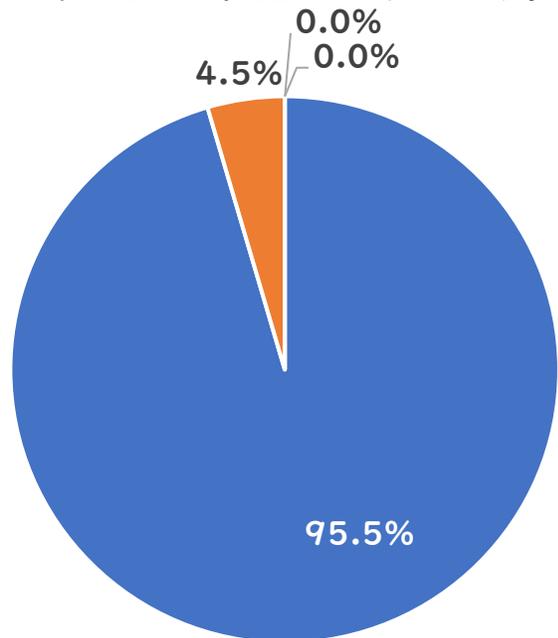


- 特に女性は買い物の場面では、とても楽しそうに過ごされていた。
- 昔の思い出をいきいきとお話される方が多かった。
- いつもと違う昼食に嬉しそうな表情をされ、いつもよりよく食べる方が多かったようだ。
- 日頃グループホームに入所しており活動量が低いと思われ、ゆったりした旅程ではあったが疲れてしまう方が何人かおられた。

# アンケート調査から

対象者：グループホーム職員、家族等（22名回答）

## 4. 今回の旅行に対する評価



- 楽しめた
- まあまあ楽しめた
- あまり楽しめなかった
- 楽しめなかった

### 不安・心配

- ・トイレ（失敗した場合、時間がかかる、車中で行きたくなったら、数、様式、介助など）
- ・不穏時等の対応（大声、落ち着かない、暴れる、疲れて動けなくなるなど）
- ・環境（段差、バスステップの昇降、靴を脱ぐ場）・食事（形状、形態、場所）

### 欲しいサポート

- ・移動時（車椅子の貸し出し、シルバーカー使用、座れるものの準備など）
- ・施設面（シルバーカーのトランク積み下ろし、踏み台の設置など）
- ・介護面（付き添い者、介護サポートスタッフ）

### 要望等

サポート付きバス旅行、車椅子やシルバーカーの方も一緒に旅行したい、リフトによる乗降サポート、旅行先のバリアフリー（段差やトイレ、食事など）シルバーカーの積み下ろしは運転士の負担になってしまわないか？

## 4. どのように社内展開したか



# 社内展開について(時系列)

2021

2022

2023

2024

研修



R  
U  
N  
伴



バ  
ス  
停



開  
発



# どのように社内展開したか

## 1. コロナを逆手にとって、社内研修としての「認知症研修」を提案した

- ・コロナ流行により企業収入が落ち込んだ時に、費用をかけず、接客にも役立ち、今後の社会情勢に対応するための研修として「認知症研修」を提案

## 2. 少しずつ誰かを巻き込みながら認知症に関する事業を展開した

- ・市からの声掛けでRUN伴に参加（上司を巻き込み）→RUN伴で知り合ったグループホーム管理者とバスの来ないバス停プロジェクト立ち上げ（豊鉄バスの取締役を巻き込み）と少しずつ誰かを巻き込みながら事業を展開

## 3. マスメディアを含めた社外への取組み発表を積極的に行った

- ・認知症研修の取組みについて、行政からの依頼に応じ発表を行った。また、バスの来ないバス停については積極的にメディア取材に対応した。

理解者を少しずつ増やすとともに、社外発表という形で会社に貢献することで、経営者層が「これはぜひ進めよう！」と気持ちが変わっていったのではないかな。

# 認知症バリアフリー宣言



豊橋鉄道と豊鉄バスの2社について、認知症バリアフリー宣言を実施（12/10ホームページ掲載）



宣言をすることで・・・

- 自社の認知症に関する取組みをより積極的に進めていきたい
- 地域のお客様へのメッセージにしたい
- 他の交通事業者が取り組む際に多少のヒントになれば・・・

# ご清聴ありがとうございました

私たち豊鉄グループは、  
東三河の豊かな未来のために  
愛され、信頼される輸送サービスを創造し続ける  
企業グループを目指します。

